

APP 環境新聞

発行日 2023年9月30日
 発行者 エイビーピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン)
 ユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP)



APP は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



フィールドワークに参加された学生と教諭の皆様

高大連携フィールドワーク in インドネシア 初開催!

2023年8月1日～5日、筑波大学附属坂戸高等学校(以下、筑坂高校)と筑波大学の、高校と大学の連携によるインドネシア・フィールドワークが初開催されました。本開催は、文部科学省が提唱するグローバル人材育成やESD(Education for Sustainable Development)推進の一環として実施され、学生16名、教諭3名がアジア・パルプ・アンド・ペーパー(以下、APP)の工場や植林地などの現場視察に訪れました。

約10日間の日程の前半にAPPへの視察が組み込まれ、日本からジャカルタに到着した翌日からAPP本社において、インドネシアにおける森林保護などの取り組みについて説明が行われ、森林火災を24時間監視するモニタールームも見学しました。その後スマトラ島に移動し、3日目の朝からは大規模に展開する植林から製紙までの一貫生産プロセスを視察し、植林苗の研究所と苗床、植林地、スマトラ象を保護している自然林地区を訪問しました。IKP(インダキアット・ペラワン)工場では、木材をチップ状にしてパルプから紙を作る生産工程や、製品の出荷と木材原料を受け入れる専用港への案内が行われました。



工場見学の様子



自然林地区で保護している象と「森の再生プロジェクト」エリアで植樹



森林火災に備えています

ニュースで連日報道されている世界各地の森林火災。今年もカナダやハワイの森林火災が深刻な被害をもたらしています。

インドネシアでも数年ぶりのエルニーニョ現象により森林火災の深刻化が予想されており、APPはヘリコプターを13台に増やす等、消防体制を強化しています。



消防訓練を体験する筑波大生

森の再生プロジェクト 進捗情報 (2023年8月現在)

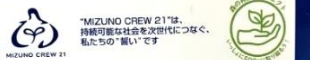
累計植樹面積: 69ヘクタール
 累計植樹本数: 31,391本



植林地では、高さ18mの火の見櫓に登って眼下に広がる植林地を確認し、消防隊による訓練を体験した後、APPの支援により焼き畑を止めて持続可能な農業を実践する農家を訪れて直接インタビューするなど、深刻化する森林火災への対策について現地視察も実施されました。4日目は、筑坂高校の提携校である環境林業省附属高校プカンバル校を交流訪問し、その後「森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう!～」を実施しているミナス・タフラ地区のSSH(スルタン・シャリフ・ハシム)大森林公園において、自生種のバランゲランやレッドメランチ(どちらもフタバガキ科)を記念植樹しました。(次ページに続く)

こんなところに「森の再生プロジェクト」ロゴ - プロジェクトの輪が広がっています

沢山のお客様にご賛同いただき、続々と「森の再生プロジェクト」ロゴが付いた製品が発売されています!



アイシングバッグ (ミズノ株式会社)



Hello トイレット・ロール 2倍巻き (ユニバーサル・ペーパー株式会社)



りんごジュエリー (株式会社坂本製菓様)



森の再生プロジェクト
 いっしょにSDGsに取り組みよう!
 この製品の売上の一部は
 インドネシアの森の再生に使われています



ビズーレ ペーパータオル (株式会社カルタス様)

(前ページからの続き)

今回の体験については、9月28日、Tsukuba Conference2023において、ASEANと日本のフレンドシップ・ベストプラクティス事例の一つとして発表が行われました。引率された筑坂高校の吉田教諭と参加した学生たちより、社会課題を目にして自ら関心のある学びにつなげていく学生の変容の様子や、各国文化の多様性を理解するプロセスも発表されました。

参加された教諭や学生の皆様からコメントが寄せられています。

●企業は環境破壊の元凶だというイメージがあったが、今回の研修を通じて自分の生活が色々な企業活動とつながっていることを体感しました。先進国の生活が途上国の負担の上に成り立っていることを自覚しないと、企業の社会的責任と言った課題も表面的な議論になると感じました。

●APP本社訪問や実際の植林地訪問、植樹体験など貴重な経験がたくさんできました。現地に行って「東南アジアの開発」に関する知識を格段に増やすことができ、卒業研究の指針も定めることができました。

●森林の一部を植林地として管理しつつ、生物多様性の保護が必要な自然林は人間の干渉を減らす、という環境保護の形が存在することを学びました。専攻しようと考えている環境社会学について、改めて学ぶ意味を問われた気がしました。

●発展途上国では、環境保全よりも利益を優先する企業が多いと思われる中、APPは環境保全に対して真摯に取り組んでいることに驚いた。持続可能な社会の形成に向けて、企業は専門家や地域コミュニティなど様々なステークホルダーとの協働、学び合いを必要していることも新たな学びだった。



筑坂高校・建元喜寿教諭

●学生には普通見ることのできない、想像を超える規模の工場や植林地などを見せていただきAPPさんには感謝しています。参加した学生に対して体験したことを教室で発表してもらったところ、一所懸命に話をしてくれて、その成長ぶりにクラスメイトが驚くなど、嬉しい後日談もありました。

**じゃかるた新聞が訪問
記事を連載!**

今回のインドネシア・フィールドワークには、現地じゃかるた新聞の青山記者が同行し、2023年8月28日号~9月1日号の5回に渡って活動内容や学生の反応を紹介する連載記事が掲載されました。



DIY HOMECENTER SHOW 2023 出展

8月24日~26日、「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW」が幕張メッセ(千葉県千葉市)で開催され、APPジャパン/UPはインドネシア・パビリオン内に展出了しました。

パビリオンのオープニングセレモニーにはAPPインドネシアのセールス・ディレクターであるジョハン・グナワン氏も駆けつけ、「森の再生プロジェクト」への貢献に対してDCM株式会社様、オザックス株式会社様と日本DIY・ホームセンター協会様に記念品を贈呈しました。

3日間で多くのお客様にご来場いただき、誠にありがとうございました。



インドネシア・パビリオンのオープニングセレモニー



新デザイン製品を手にした株式会社カルタス様と

**第12回SAF開催 & APPサステナビリティ
報告書2022(インドネシア)公開**

第12回 SAF(ステークホルダー・アドバイザリー・フォーラム)が、7月25日、APP本社(インドネシア・ジャカルタ)で開催されました。サステナビリティ担当役員であるエリム・スリタバ氏の挨拶と共に、森林保護方針10周年を祝うメッセージがアスクル株式会社様を始め、世界各国のステークホルダーから寄せられました。

またその開催に合わせ、APPインドネシアの「サステナビリティ報告書2022」が公開されました。レポートは以下のURLからご確認ください。

<https://onl.bz/u8DHLU6>



APPサステナビリティ報告書2022

日本インドネシア国交樹立65周年記念イベント参加

9月22日~24日、日本とインドネシアの国交樹立65周年を記念して、イオンモール伊丹(兵庫県伊丹市)でインドネシア・フェアが開催され、APPジャパン/UPも出展しました。

初日にはサラヤ株式会社様と株式会社Life-do.Plus様をお招きし、「森の再生プロジェクト」ご貢献に対する感謝盾を贈呈しました。



感謝盾贈呈式の様子

今年もエコプロ 2023 に出展します

APPジャパン/UPは、12月6日~8日に東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催されるエコプロ 2023 に今回も出展します。

現在、スタッフ一同で企画を鋭意検討中です。ご期待ください!!

「APPはこう考える」~再生紙とバージンパルプ~

環境保護やSDGsが叫ばれる現在、紙を使うなら再生紙で、という声が改めて高まっています。確かに再生紙は、資源の再利用という点で環境に優しいと言われます。ただし、製紙メーカーからすると全ての紙を再生紙で、という意見には違和感が残ります。

なぜなら、古紙パルプは6回ほどリサイクルすると、再生紙の材料にならないほど繊維が損耗するので、今ある紙を永遠にリサイクルし続けることはできないからです。

そのため、紙の世界は、常にバージンパルプと古紙パルプが循環しながら成り立っています。その比率は世界平均で古紙パルプ60%(日本では67%)に対してバージンパルプが40%。紙は世界的に見ても、かなり再利用が進んでいる素材と言えます。

紙には様々な製品があるので、各々のパルプの特徴を活かした製品作りこそ合理的だと考えます。

(次号に続く)



森の再生プロジェクト 参加方法

- 1. 「森の再生プロジェクト」の対象製品を購入する
- 2. 個人・法人等で寄付をお考えの方

→ APPジャパンにご連絡ください (sustainability@appj.co.jp)

APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます

<http://www.app-j.com/topics/1673.html>